



いろいろ書店・八木淳成さんと
馬渡さんも「ここは180戸ありますが、高齢者の孤独死を防ぐために仮設団地を4つの自治会に分けました。高さんは第3団地の会長として活動していただいています。まねばなく皆に声をかけられて、集会所では

馬渡さんも「ここは180戸ありますが、高齢者の孤独死を防ぐために仮設団地を4つの自治会に分けました。高さんは第3団地の会長として活動していただいています。まねばなく皆に声をかけられて、集会所では

馬渡さんも「ここは180戸ありますが、高齢者の孤独死を防ぐために仮設団地を4つの自治会に分けました。高さんは第3団地の会長として活動していただいています。まねばなく皆に声をかけられて、集会所では

馬渡さんも「ここは180戸ありますが、高齢者の孤独死を防ぐために仮設団地を4つの自治会に分けました。高さんは第3団地の会長として活動していただいています。まねばなく皆に声をかけられて、集会所では

2025年12月12日（金）・13日（土）、日本出版クラブ震災対策室運営事務局は、2026年1月1日で丸2年を迎える令和六年能登半島地震の被災地を訪問しました。



北國新聞の安田さん、輪島市立図書館の堂ヶ口さん、細谷さん

北國新聞の安田さん、輪島市立図書館の堂ヶ口さん、細谷さん

震災対策室だより

能登半島視察を12月に実施

能登半島地震をきっかけとして2024年7月に発足した日本出版クラブ震災対策室は「能登の置き本」と称して被災地5自治体（珠洲市、七尾市、輪島市、穴水町、能登町）35カ所の仮設住宅集会所、公民館に図書寄贈をおこなっている。一カ所につき出版社から寄贈された20タイトルに加え、5自治体の地元書店で購入する10タイトルの計30タイトルのセットを一回分として送付しており、2025年12月時点で4回の「能登の置き本」を実施、5回目を1月下旬に予定。今回は12月に運営事務局がおこなった視察の報告をする。（編集部）



島を縦横断する行程でした。雪の舞う中、のと里山海道のルートでまず向かったのは七尾市のきくざわ書店です。社長の菊沢平光さんは営業中にもかかわらずご対応いただき、被災後のこれまでについて「全壊した家の解体工事が七尾市はあまり進んでいません。自分たちが見慣れていた風景が変わって日常が失われました。だいぶ慣れましたけれど一時は落ち込みましたね」とお話しされました。続いて訪れたのは輪島市です。昼食を大下書店社長の大下克司さんと一緒にしました。2024年の視察の際に、2階の重みで1階の店舗が押しつぶさ

「既に春の教科書販売の準備は始まっています。以前は朝市のそばに作業用の倉庫を借りていましたが火災の時に全部燃えてしまいました。半年前から教科書を送ってくる出版社もあるし、今の輪島では倉庫が借りられないので金沢にある石川県教科書販売所で一度預かってもらって、必要な時期が来たら送ってもらいます。助かりますね」



きくざわ書店の菊沢平光さん①、大下書店の大下克司さんを囲んで②、輪島朝市の周辺は更地になり草が生い茂っていた③



すが、「子どもたちに本というモノ」を届けるのはとても良いことで大事なことです。とおっしゃっていました。大下さんは書店再建に向けて動き出されているそうです。

初日の最後に訪ねたのは輪島ワイブラザ内の仮設輪島市立図書館です。輪島市立図書館・輪島市立門前図書館管理係長の細谷樹史さんと輪島市立図書館主事・堂ヶ口真奈さん、北國新聞社奥能登支社長・輪島総局長の安田哲朗さんにお会いしました。旧図書館が併設していた文化会館は12月から解体作業の開始が急遽決まったために11月末に約8万5000冊の図書移動を急ピッチで進められた顛末、また雪解けの頃に予定している図書点検や蔵書データの整理など、これからの課題を教えてくださいました。仮設輪島市立図書館